

## 青年部・女性部・講師会・次世代研究グループによる

### 東日本大震災 旭市災害ボランティア活動

#### 1. 活動状況

3月11日（金）に起きた大震災により千葉県でも、旭市・浦安市を中心に各地で甚大な被害が発生しました。

特に旭市飯岡地区では、津波により多くの方が亡くなり、多数の家屋が全半壊しました。まず3月15日（火）、救援物資としてストックしてあるタオルの中から400枚を、女性部長が旭支部に届けました。その他、理容組合でも何か出来ないかと相談していたところ、翌16日（水）、旭市に災害ボランティアセンターが立ち上がり、瓦礫の撤去と浸水した家財道具の運び出しなどを手伝うボランティアの募集が始まりました。



青年部長は、大道寺講師会長からボランティア協力の連絡を受けていたので、早速、青年部・講師会・次世代研究グループが中心となって、3月21日（月）・22日（火）の二日間、ボランティアに参加できる人を募り始めました。作業内容が力仕事なので、女性は県の役員と旭支部の女性部のみに呼び掛けをしました。その結果、21日が46名・22日が56名と、延102名の参加申し込みがありました。

しかし、あいにくな事に21日は雨のため作業は中止になってしまいました。そこで、支援物資の搬入先である旭市商工観光課へ、追加要請のあったタオル600枚と講師会長が持参してくれたトイレトペーパーやティッシュペーパー、使い捨てカイロなどを2人で届けに行きました。その際「理容技術を活かし、避難所生活の疲れを癒す事をしてあげたい」と伝えたとこ、ボランティアセンターに問い合わせ「ぜひお願いしたい」との返事を頂きました。そこで急遽リラクゼーション施術「ヘッドマッサージ」や「スカルプ」「肩揉み」などを行うことにしました。



翌22日も雨で作業は中止だったので、今度は、鋏やレザー、シャンプー台などを用意し、中央支部の女性部にも応援を頼み、シャンプー、カット、シェービングやヘッドマッサージを提供する活動と、支援物資の仕分け作業を分担して行いました。避難所生活ではお風呂に毎日入れないので「身体を洗えない事よりも、頭が洗えない方が辛い。今日は本当にさっぱりしました」という方や、初めての顔そりに感動してくれて、ある年配の女性には、「カットも出



館山支部の持ち運び式洗髪設備でのシャンプー

来るなら、今度は理容店へ行ってみたい」と、言ってくれた方がいました。

雨天のため当初の予定が変更になり、急遽連絡が取れる人のみの参加でしたが、21日は20名、22日は35名で活動する事ができました。旭市ではまだ200名以上の方が辛い避難生活をおくっています。住む家があり、仕事ができる自分たちの幸せをありがたいと感じると共に、被災された方々の一日も早い復興を願わずにはられません。



今回の活動を通して、組織の大切さを改めて感じました。一人ひとりの力はとても小さく、出来ることは本当に限られてしまっていますが、みんなが力を合わせることで、一の力が二倍にも三倍にも膨らみ、急だったにも関わらずこのような活動が出来ました。これは、理容組合というしっかりとした組織があったからこそです。そしてもうひとつ、県講師会と次世代研究グループ、青年・女性部が協力出来たことは、これからの活動にもとても有意義なものになってくれると思います。

最後にご協力頂いたすべての皆さまに御礼を申し上げます。ありがとうございました。

## 2. 当初のボランティア活動（102名）

- ・ 家財の持ち出し片付け、土砂のかき出し等
- ・ 21日（月）参加申込者数 46人
- ・ 22日（火）参加申込者数 56人

雨天により中止になったため、講師会、青年部、女性部、次世代など選抜で活動しました。

（投稿 川名）